バージョンアップガイド
（Ver.8→Ver.9）

ONE Ver.8 から Ver.9 へのバージョンアップ内容をご紹介します。

※解説内容がオプションプログラムの説明である場合があります。
　ご了承ください。

目次　バージョンアップガイド ONE（Ver.8→Ver.9）

1 メイン・共通　P.1

1-1 標高成果の改定への対応 ____ 1
1-2 緯度・経度の丸めを追加 ____ 2

2 座標管理　P.3

2-1 登記所備付地図データの読み込みに特化した機能を実装 ____ 3

3 地番管理　P.4

3-1 面積調整方法の拡充 ____ 4
3-2 面積調整での移動量制限値の入力に対応 ____ 5
3-3 登記所備付地図データの読み込みに特化した機能を実装 ____ 6

4 CAD　P.7

4-1 入力方法の強化（平行線） ____ 7
4-2 入力方法の強化（平行補助線） ____ 7
4-3 データサイズが大きいラスタデータに対応 ____ 8
4-4 文字移動後の配置方法の強化 ____ 8
4-5 他の現場データからの図面読み込みに対応 ____ 9
4-6 要素未選択時の矢印の属性に［サイズ］を追加 ____ 9

5 宅地割り計画　P.10

5-1 入力方法の強化（平行補助線） ____ 10

6 基準点測量　P.11

6-1 基準点測量記載要領の未対応様式を追加 ____ 11

7 水準測量　P.12

7-1 レベル点検機能追加 12
7-2 基準点測量記載要領（水準測量編）の未対応様式を追加 13

8 路線測量　P.14

8-1 ＋（プラス）杭のCAD入力に対応 14
8-2 巾杭ステージで中間点の取り込みに対応 14
8-3 アプリケーションからの図面配置に対応 15

9 縦横断測量　P.16

9-1 区間距離の入力に対応 16
9-2 アプリケーションからの図面配置に対応 16

10 3次元計測　P.17

10-1 標定点などの点名をカスタマイズできる設定を追加 17
10-2 撮影シミュレーションの制限緩和 17
10-3 斜め往復撮影機能の改良 18

11 登記用XML作成　P.19

11-1 入力方法の強化（平行線） 19
11-2 入力方法の強化（平行補助線） 19

1 メイン・共通

メイン・共通の新機能をご紹介します。

1 - 1 標高成果の改定への対応

令和7年4月1日に標高成果の改定が行われたことに伴い、新たなジオイド・モデル「ジオイド2024日本とその周辺（JPGEO2024.isg）」の取り込みに対応し、関連アプリケーションでそれを使用して計算できるようにしました。
また、測地系設定に「世界測地系（測地成果2024）」を追加し、それを該当する計算書に表示することで、標高成果改定後と改定前の測量成果を区別できるようにしました。

● ［共通］タブ－［設定］グループ－［現場の情報］コマンド

1 - 2　緯度・経度の丸めを追加

［条件設定］に[緯度・経度の丸め]を追加し、緯度・経度の丸め方法を小数点以下10桁（秒の小数点以下6桁）まで設定できるようにしました。

● ［共通］タブ－［設定］グループ－［条件設定］コマンド

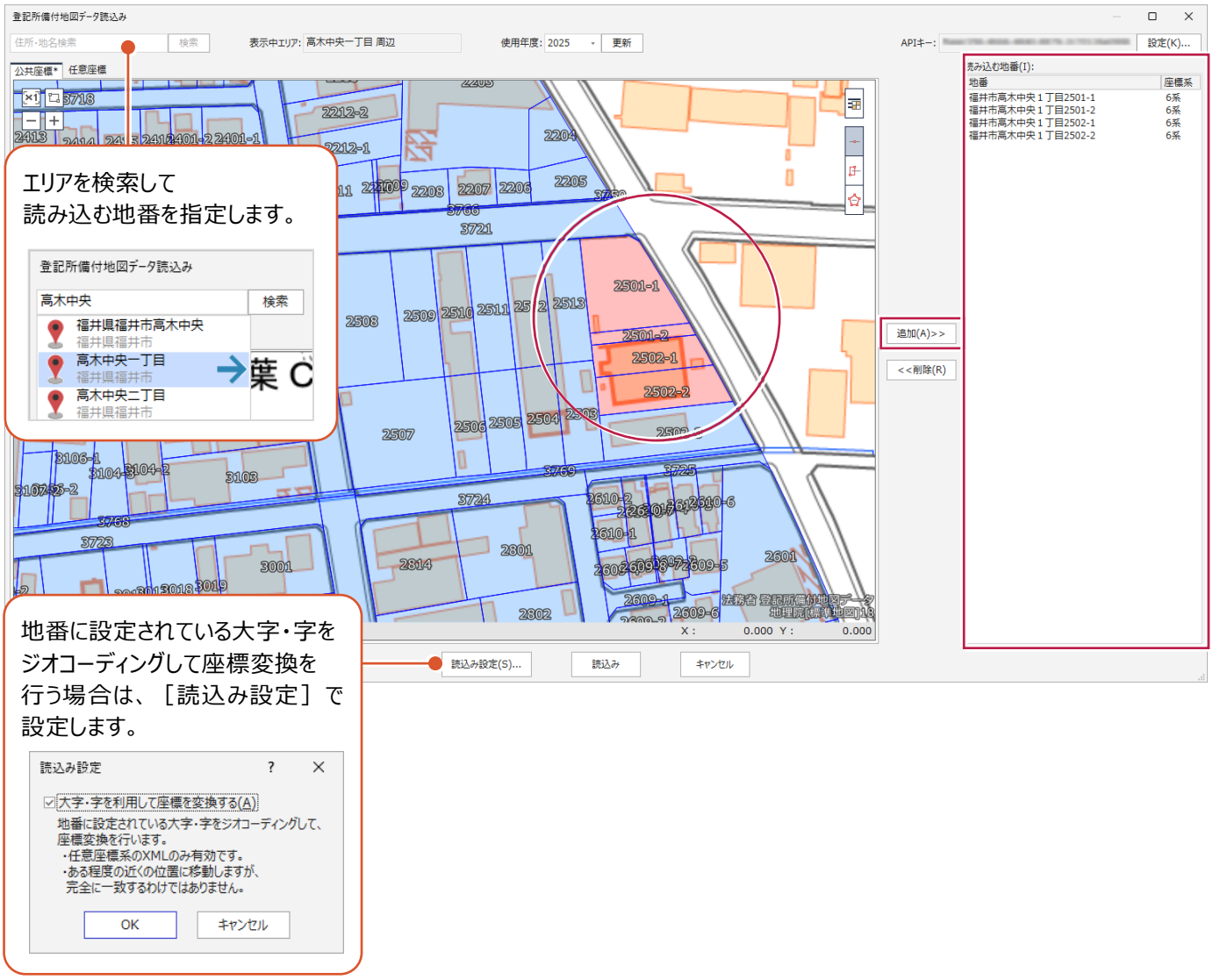
2 座標管理

座標管理の新機能をご紹介します。

2 - 1 登記所備付地図データの読み込みに特化した機能を実装

登記所備付地図データ（以下、地図データと称する）の読み込みは［地図XML読込み］で行っていただいていましたが、今回地図データの読み込みに特化した機能を新たに実装しました。
この機能では、TREND-ONEからG空間情報センターのWebサイトに直接アクセスし、そこから必要となる地図データを読み込むことが可能です。
［地図XML読込み］よりも読み込み方法を簡略化し、読み込みたい地番を選択して読み込めるようにしています。
また、任意座標系の地図データの場合は、地番に登録されている大字・字をジオコーディングして、実際の所在にある程度近づくように座標を変換させることも可能です。

● ［座標専用（座標管理）］タブ－［データ読込み］グループ－［登記所備付地図データ］コマンド



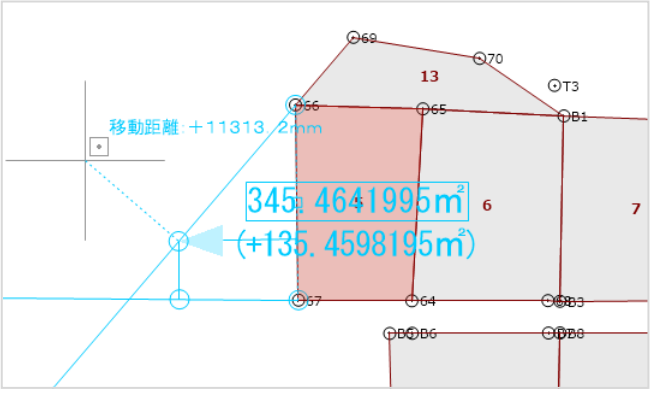
3 地番管理

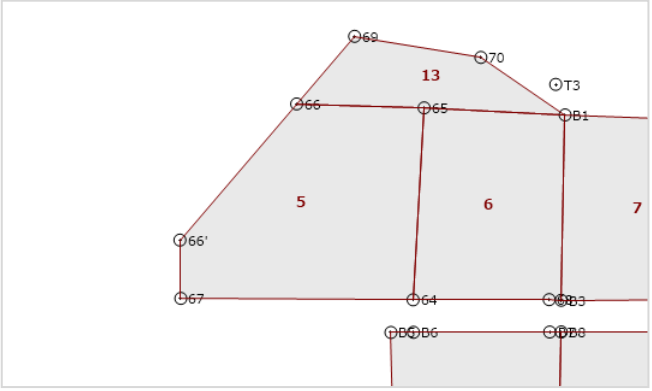
地番管理の新機能をご紹介します。

3 - 1 面積調整方法の拡充

新たに［区間指定伸縮］を追加し、指定した区間をマウスで動かしながら面積を調整できるようにしました。
従来の機能同様に、［面積指定］［移動量指定］も可能です。

● ［地番専用（地番管理）］タブ－［地番編集］グループ－［特殊編集］－［面積調整］コマンド

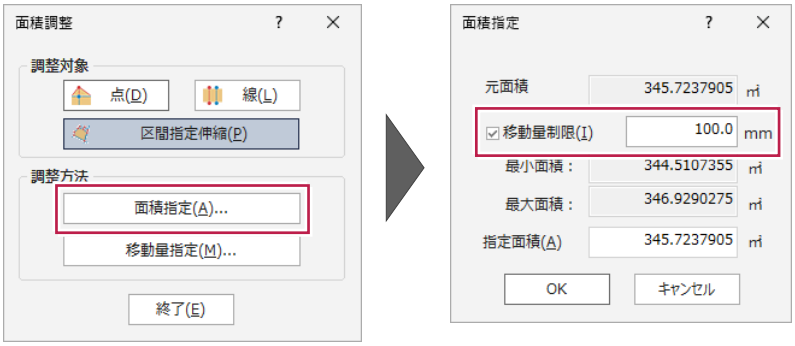




3 - 2　面積調整での移動量制限値の入力に対応

［線］［区間指定伸縮］の［面積指定］で、［移動量制限］を設定できるようにしました。
［移動量制限］を設定した場合は、線または区間の移動量が最大でその値になりますので、指定した面積にはならない場合があります。

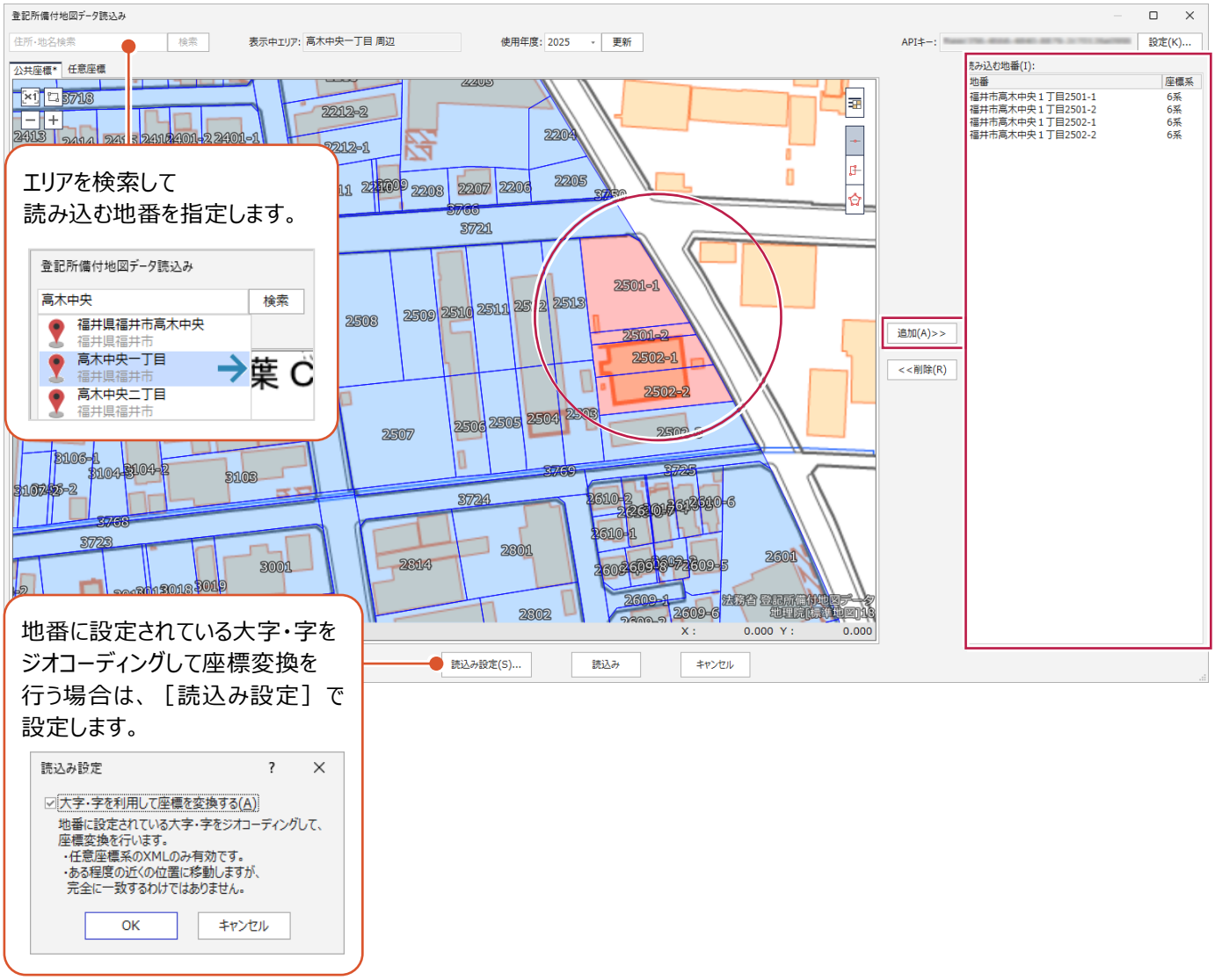
● ［地番専用（地番管理）］タブ－［地番編集］グループ－［特殊編集］－［面積調整］コマンド



3 - 3　登記所備付地図データの読み込みに特化した機能を実装

登記所備付地図データ（以下、地図データと称する）の読み込みは［地図XML読込み］で行っていただいていましたが、今回地図データの読み込みに特化した機能を新たに実装しました。
この機能では、TREND-ONEからG空間情報センターのWebサイトに直接アクセスし、そこから必要となる地図データを読み込むことが可能です。
［地図XML読込み］よりも読み込み方法を簡略化し、読み込みたい地番を選択して読み込めるようにしています。
また、任意座標系の地図データの場合は、地番に登録されている大字・字をジオコーディングして、実際の所在にある程度近づくように座標を変換させることも可能です。

● ［地番専用（地番管理）］タブ－［データ読込み］グループ－［登記所備付地図データ］コマンド



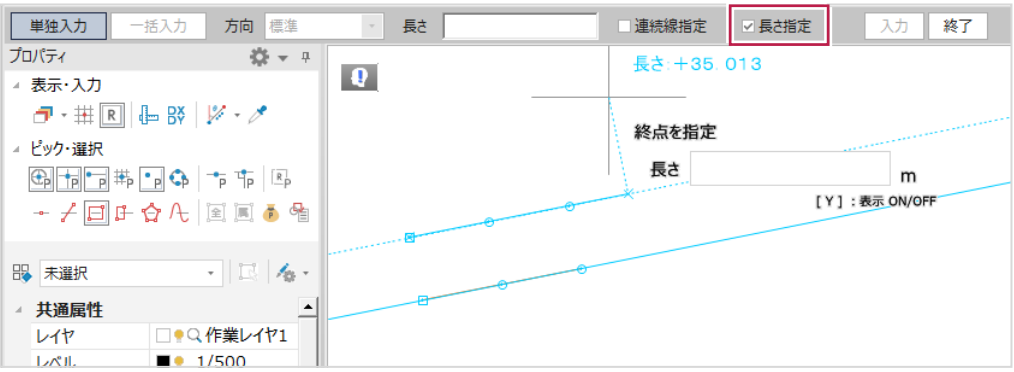
4 CAD

CADの新機能をご紹介します。

4 - 1 入力方法の強化（平行線）

平行線の単独入力時に、長さを指定できるようにしました。

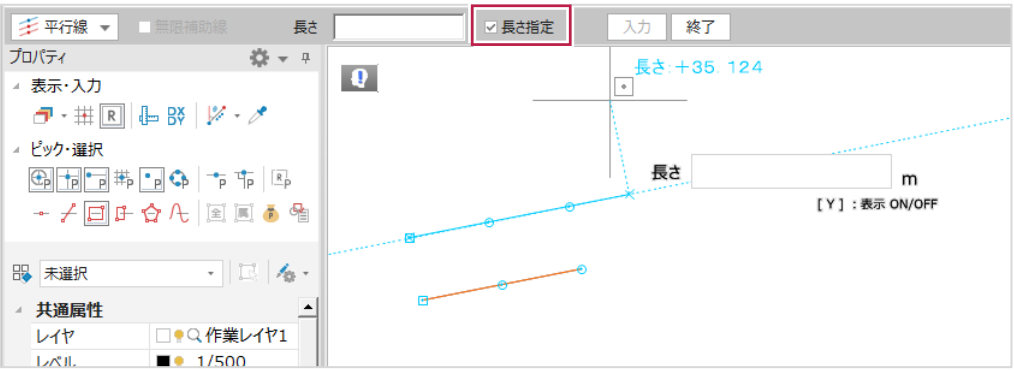
● ［ホーム］タブ－［汎用作図］グループ－［線入力］－［平行線］コマンド



4 - 2 入力方法の強化（平行補助線）

平行補助線を入力する際に、長さを指定できるようにしました。
※「無限補助線」がオフの場合、および無限補助線を基準線に指定していない場合

● ［汎用作図］タブ－［線］グループ－［補助線］コマンド



4 - 3　データサイズが大きいラスタデータに対応

GeoTiff配置では従来、2GBを超えるラスタデータは自動で2GB以下にサイズ調整して読み込んでいましたが、2GBを超えるラスタデータでもオリジナルサイズのまま読み込めるようにし、それを書き込むこともできるようにしました。
（オリジナルサイズで読み込んだ場合はCADの動作が重くなる可能性がありますので、従来通り2GB以下にサイズ調整して読み込むこともできます。）
ラスタ・写真配置においても、今まで読み込めなかったラスタを読み込めるように対応しました。

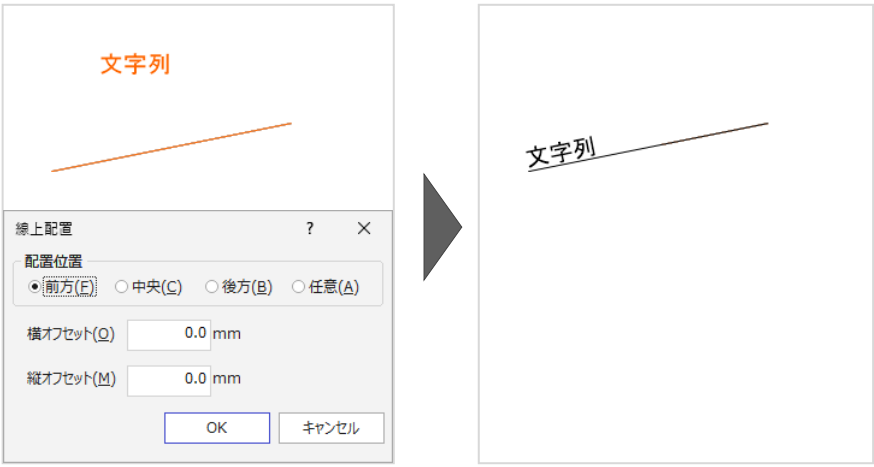
- ［ホーム］タブ－［汎用作図］グループ－［ラスタ・写真配置］－［配置］コマンド
- ［汎用作図］タブ－［ラスタ・写真］グループ－［ラスタ・写真配置］－［書込み］コマンド
- ［汎用作図］タブ－［ラスタ・写真］グループ－［GeoTIFF］－［配置］コマンド
- ［汎用作図］タブ－［ラスタ・写真］グループ－［GeoTIFF］－［書込み］コマンド

4 - 4　文字移動後の配置方法の強化

［移動の指定］に［割付方法］を用意し、移動後の配置方法を選択できるようにしました。
［割付方法］には、文字入力時のものに加え、［線上配置］を追加しています。

- ［データ編集］タブ－［文字編集］グループ－［文字編集］－［移動・回転］コマンド

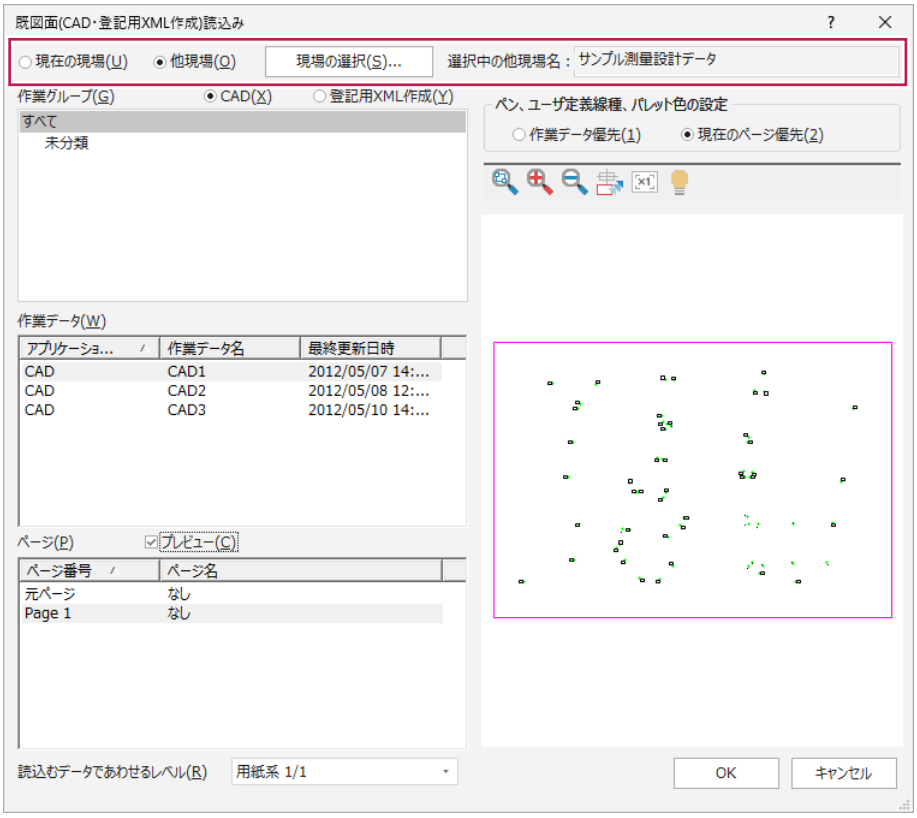
［線上配置］



4 - 5　他の現場データからの図面読み込みに対応

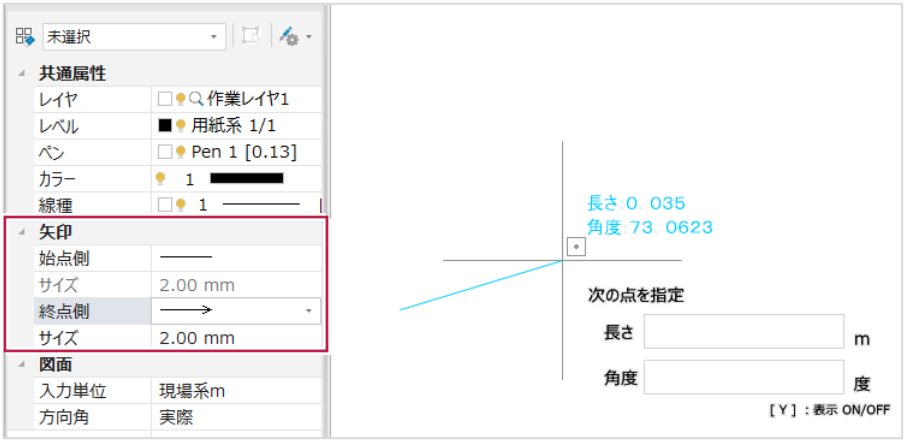
開いている現場データとは別の現場データからも図面データを読み込めるようにしました。

● ［表示］タブ－［ページ］グループ－［既図面］コマンド



4 - 6　要素未選択時の矢印の属性に［サイズ］を追加

線要素選択時にプロパティに表示される矢印の［サイズ］を要素未選択時も表示するようにし、線入力時も矢印のサイズを指定できるようにしました。



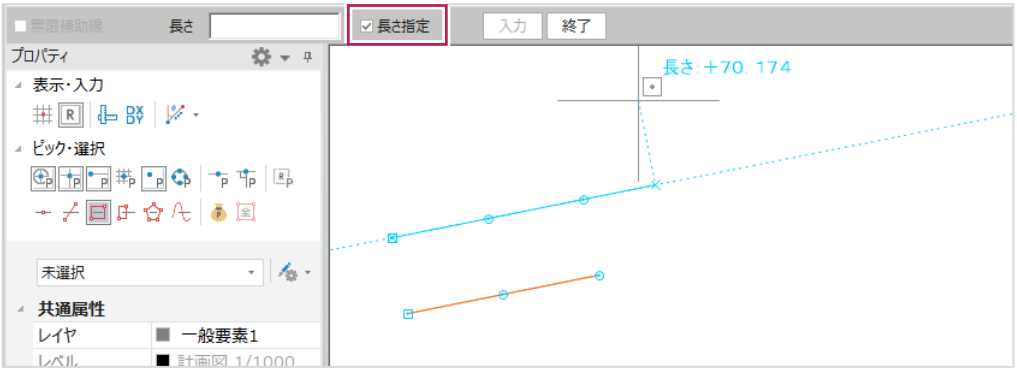
5 宅地割り計画

宅地割り計画の新機能をご紹介します。

5 - 1 入力方法の強化（平行補助線）

平行補助線を入力する際に、長さを指定できるようにしました。
※「無限補助線」がオフの場合、および無限補助線を基準線に指定していない場合

● ［ホーム］タブ－［汎用作図］グループ－［補助線］－［平行線］コマンド



6 基準点測量

基準点測量の新機能をご紹介します。

6 - 1 基準点測量記載要領の未対応様式を追加

令和3年度版基準点測量記載要領に掲載されている様式で未対応だった様式を、初期出荷フォーマットに追加しました。

・精度管理表　その1　タイプ３　R3年度記載要領
・精度管理表　その1-2 (厳密網)　タイプ３　R3年度記載要領
・精度管理表　その1-3 (簡易網)　タイプ３　R3年度記載要領

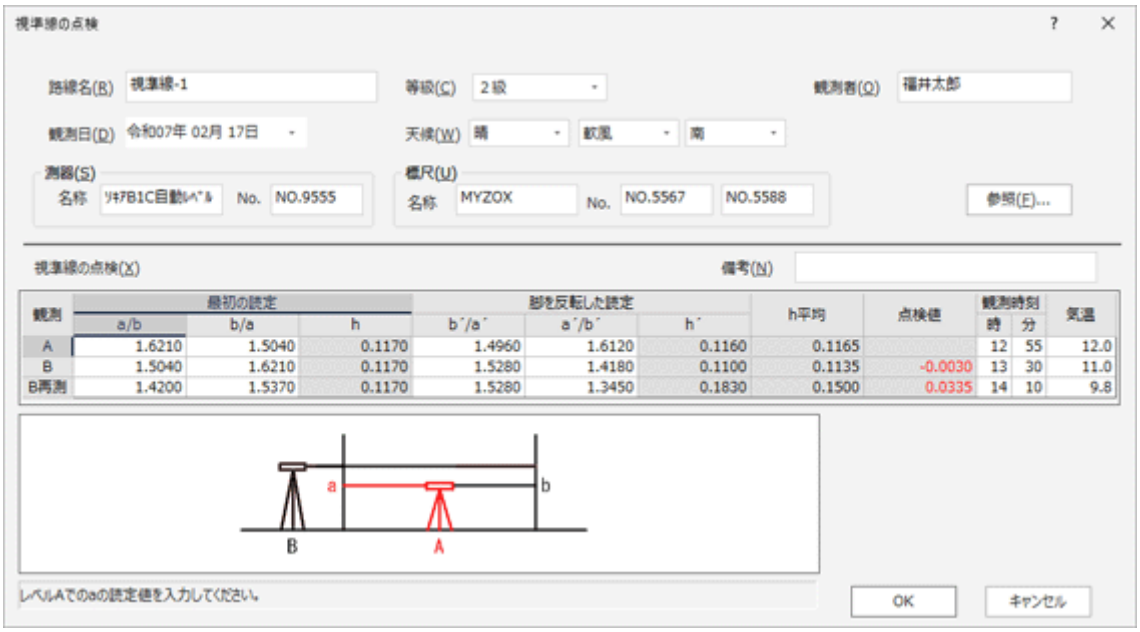
7 水準測量

水準測量の新機能をご紹介します。

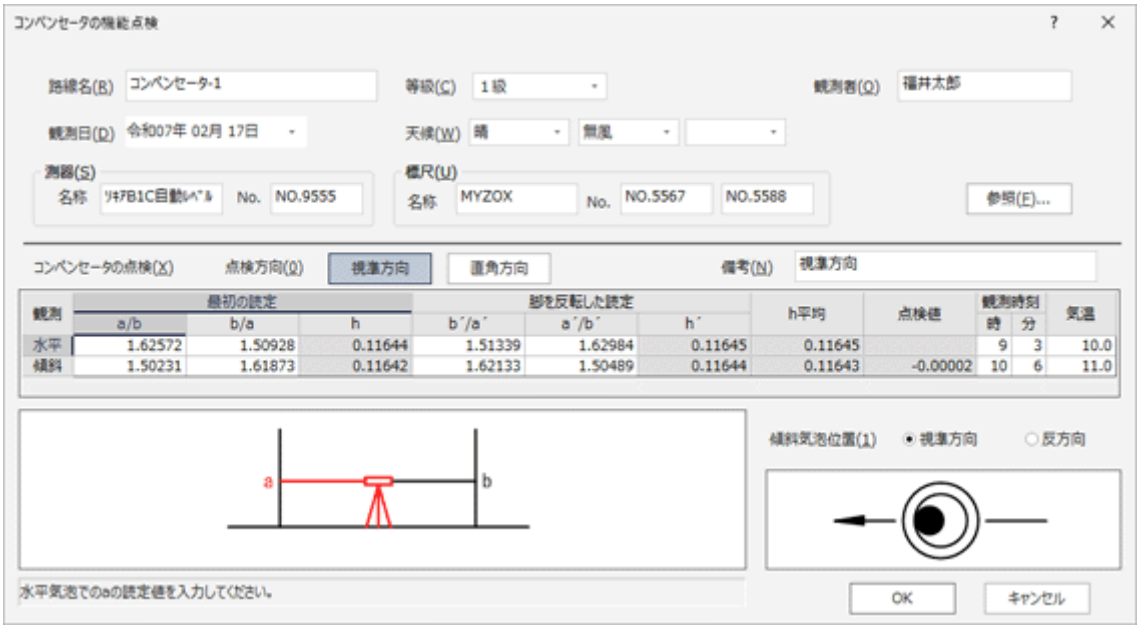
7 - 1 レベル点検機能追加

水準測量の観測前に行う「点検調整（視準線の点検）」と「コンペンセータの点検」に対応し、当該帳票の作成を可能にしました。

● ［手簿］ステージ－［手簿］タブ－［データ編集］グループ－［レベル点検］－［視準線の点検］コマンド



● ［手簿］ステージ－［手簿］タブ－［データ編集］グループ－［レベル点検］－［コンペンセータの機能点検］コマンド



7-2 基準点測量記載要領（水準測量編）の未対応様式を追加

令和5年度版基準点測量記載要領（水準測量編）に掲載されている様式で未対応だった様式を、初期出荷フォーマットに追加しました。

・コンペンセータの機能点検　タイプ１　R5年度記載要領
・視準線の点検　タイプ１　R5年度記載要領
・成果表　地盤沈下調査水準測量成果表　R6年度作業規程
・正規正標高補正(楕円補正)計算　タイプ１　R5年度記載要領
・地盤沈下変動補正計算　タイプ１　R5年度記載要領
・点検計算　点検計算書　タイプ２　R5年度記載要領

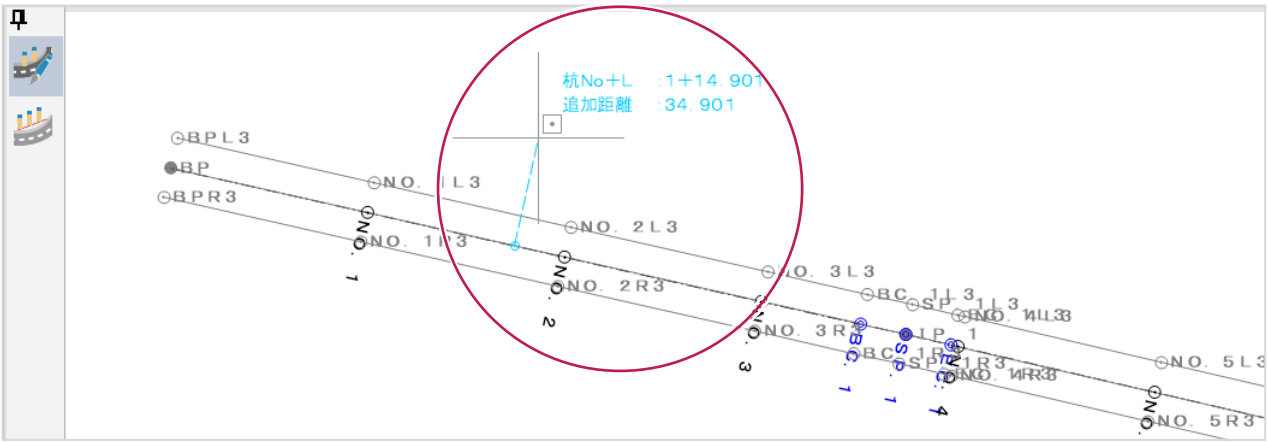
8 路線測量

路線測量の新機能をご紹介します。

8 - 1 ＋（プラス）杭の CAD 入力に対応

＋（プラス）杭の新規入力や訂正をCAD入力でも行えるようにしました。

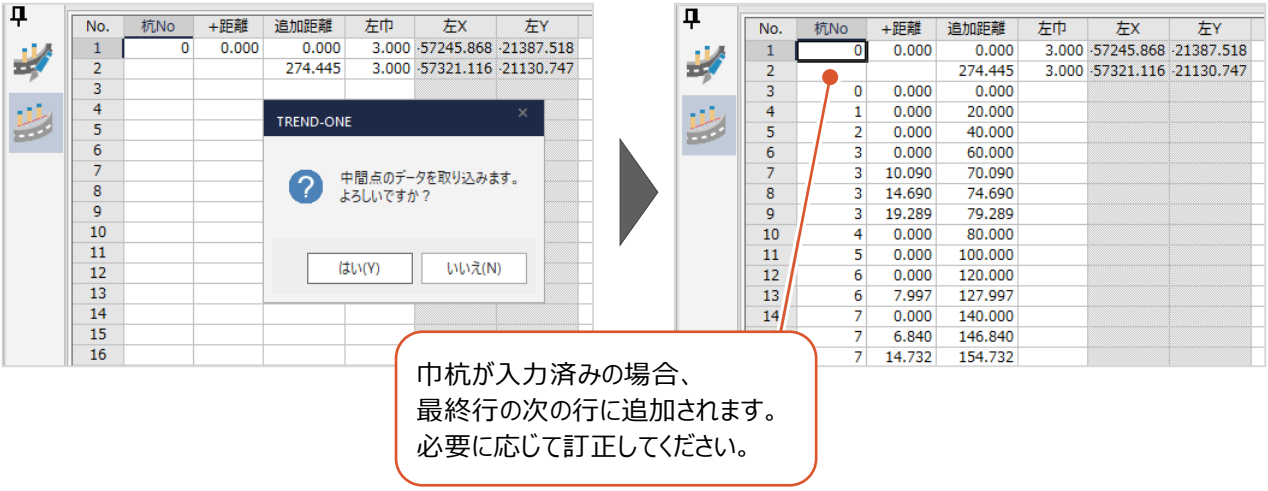
- ［路線計画］ステージ－［路線計画］タブ－［路線計算］グループ－［＋（プラス）杭］－［新規入力］コマンド
- ［路線計画］ステージ－［路線計画］タブ－［路線計算］グループ－［＋（プラス）杭］－［訂正］コマンド



8 - 2 巾杭ステージで中間点の取り込みに対応

EX-TREND 武蔵（建設CAD）と同様に、路線計算で求められた中間点のデータ（杭No、＋距離、追加距離）を巾杭ステージに取り込めるようにしました。

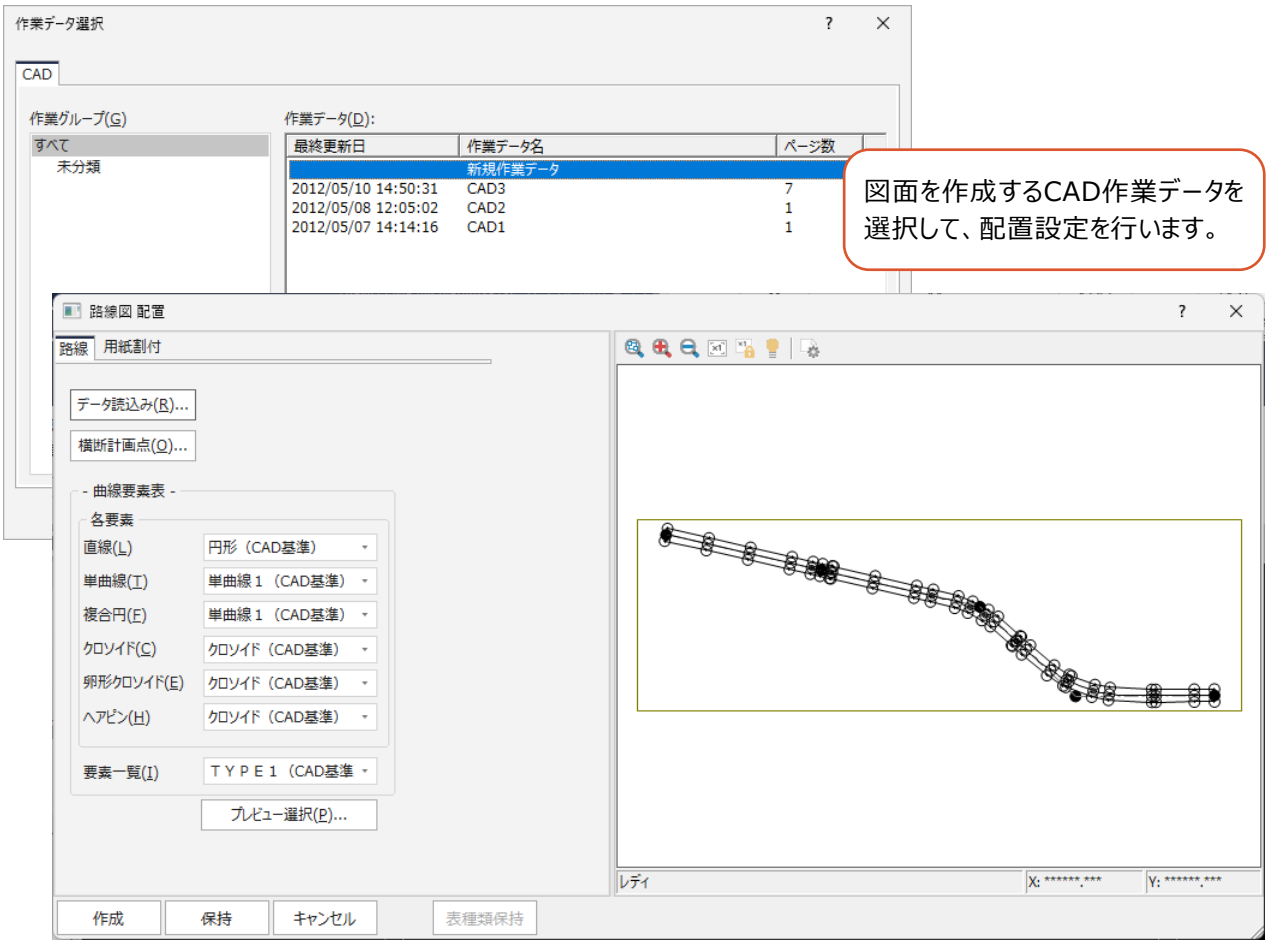
- ［巾杭］ステージ－［巾杭］タブ－［データ入力］グループ－［中間点取込み］コマンド



8 - 3 アプリケーションからの図面配置に対応

《地番管理》の［CAD配置］と同等な対応を行い、アプリケーションから直接図面配置ができるようにしました。

- ［路線計画］ステージ－［路線計画］タブ－［計算書・図面］グループ－［CAD配置］コマンド
- ［巾杭］ステージ－［巾杭］タブ－［計算書・図面］グループ－［CAD配置］コマンド



9 縦横断測量

縦横断測量の新機能をご紹介します。

9 - 1 区間距離の入力に対応

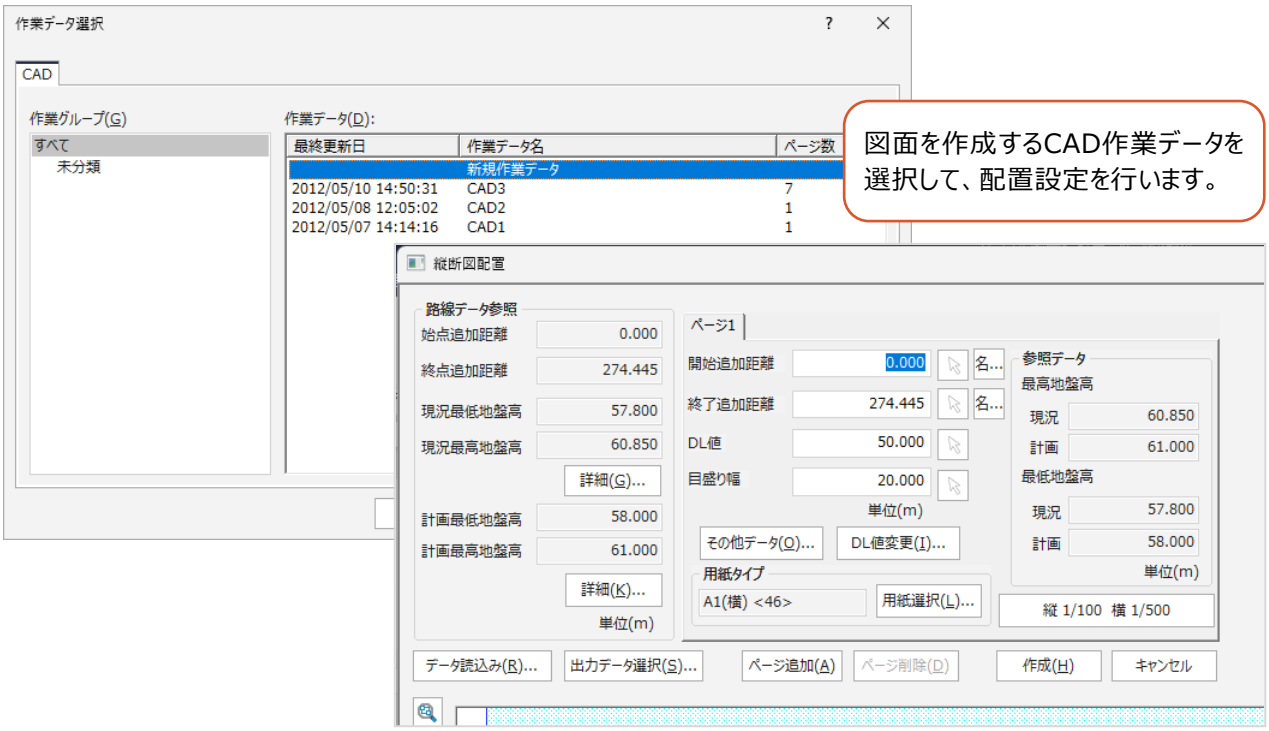
［縦断野帳］ステージに［区間距離］セルを追加し、中心点から測定した距離の入力に対応しました。

No.	既知点番	既知点名	新規点番	新規点名	図化モード	変化点	単距離	区間距離	実追加距離	センター左右	点種類	観測モード	BM
1													
2	111	BP			表・結線	杭	0.000	0.000	0.000		登録点A	レベル	
3	217	NO.1			表・結線	杭	20.000	20.000	20.000		登録点A	レベル	
4	218	NO.2			表・結線	杭	20.000	20.000	40.000		登録点A	レベル	
5	219	NO.3			表・結線	杭	20.000	20.000	60.000		登録点A	レベル	
6	220	BC.1			表・結線	杭	10.090	10.090	70.090		登録点A	レベル	
7	221	SP.1			表・結線	杭	4.600	4.600	74.690		登録点A	レベル	
8	222	EC.1			表・結線	杭	4.599	4.599	79.289		登録点A	レベル	
9	223	NO.4			表・結線	杭	0.711	0.711	80.000		登録点A	レベル	

9 - 2 アプリケーションからの図面配置に対応

《地番管理》の［CAD配置］と同等な対応を行い、アプリケーションから直接図面配置ができるようにしました。

- ［縦断現況］ステージ－［縦断現況］タブ－［計算書・図面］グループ－［CAD配置］コマンド
- ［縦断計画］ステージ－［縦断計画］タブ－［計算書・図面］グループ－［CAD配置］コマンド
- ［横断現況］ステージ－［横断現況］タブ－［計算書・図面］グループ－［CAD配置］コマンド
- ［横断計画］ステージ－［横断計画］タブ－［計算書・図面］グループ－［CAD配置］コマンド



図面を作成するCAD作業データを選択して、配置設定を行います。

10 3次元計測

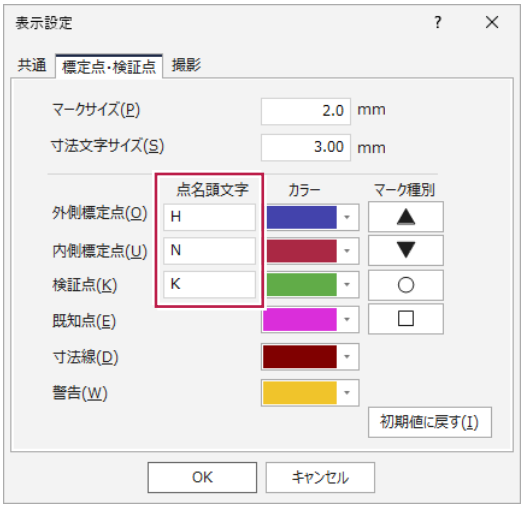
3次元計測の新機能をご紹介します。

10-1 標定点などの点名をカスタマイズできる設定を追加

標定点や調整点などの配置時に付与される点名の頭文字は、従来「H」や「T」などアプリケーションで固定されていましたが、それを自由にカスタマイズできる機能を［表示設定］に実装しました。

● ［メニュー］ – ［表示設定］コマンド

例）UAVの場合



10-2 撮影シミュレーションの制限緩和

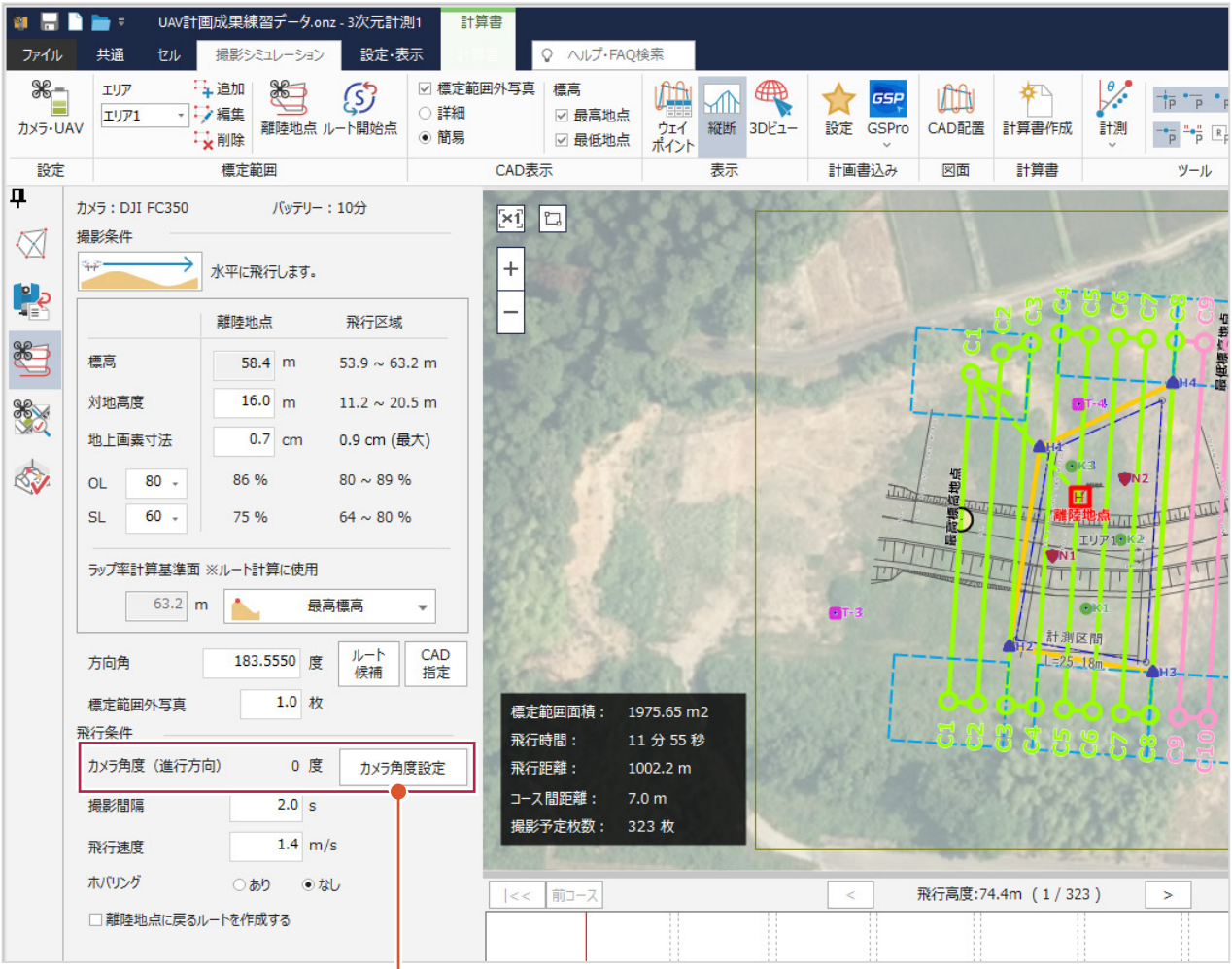
従来、「外側標定点」が存在しないと［撮影シミュレーション］ステージに入ることができませんでしたが、その制限を緩和し、「外側標定点」が存在しなくても当ステージに入って操作できるようにしました。

これにより、標定点を設置できない現場（災害現場など）や、使用するUAVによっては標定点の設置を省略できる業務の撮影シミュレーションが可能になります。

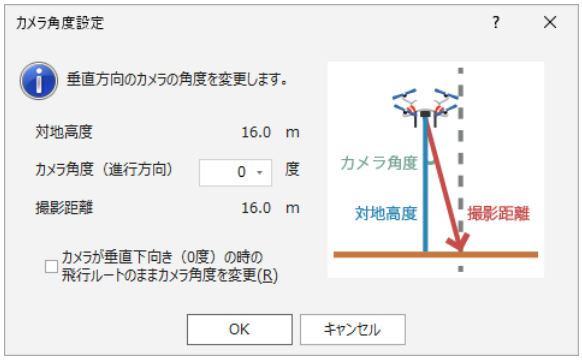
10-3 斜め往復撮影機能の改良

従来、カメラ角度を変更した場合も、カメラ角度変更による画角で［標定範囲外写真］を確保する飛行ルートを作成していましたが、カメラの角度によっては飛行距離が非常に長くなってしまうことがあるため、カメラが垂直下向きの時の飛行ルートのままカメラ角度を変更できるようにしました。

● ［撮影シミュレーション］ステージ



垂直方向のカメラの角度を設定します。



［カメラが垂直下向き（0度）の時の飛行ルートのままカメラ角度を変更］
オン：カメラが垂直下向き（0度）の時の画角で飛行ルートが計算されます。
オフ：カメラ角度による画角の変化を考慮した飛行ルートが計算されます。

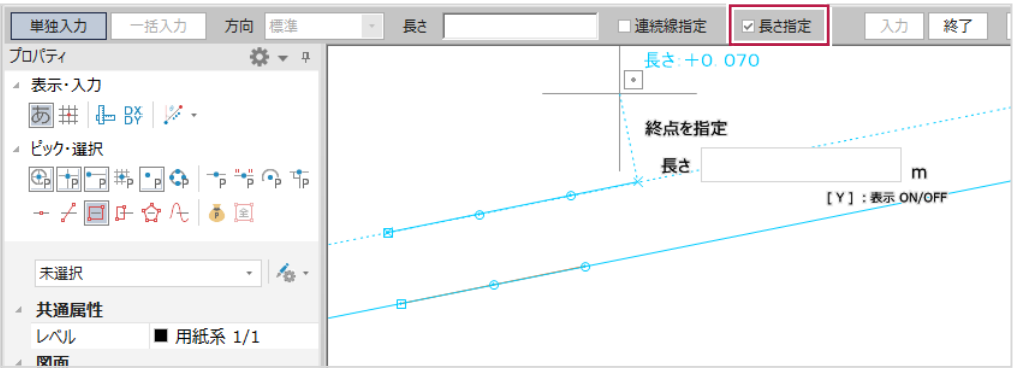
11 登記用 XML 作成

登記用XML作成の新機能をご紹介します。

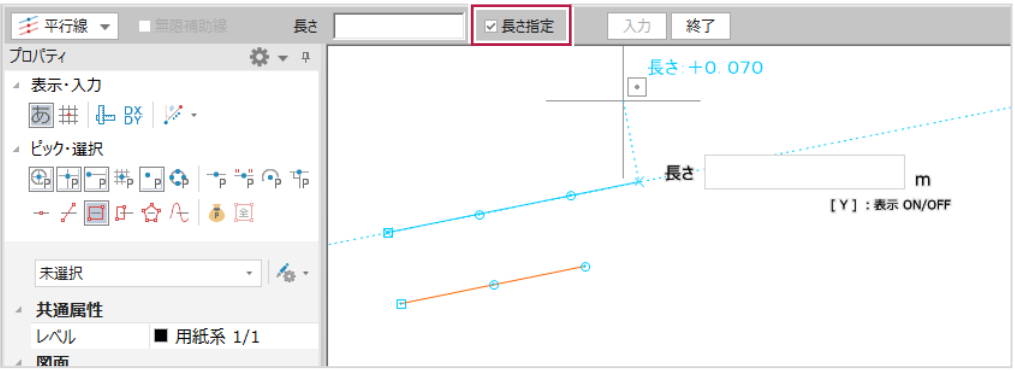
11-1 入力方法の強化（平行線）

平行線の単独入力時に、長さを指定できるようにしました。

● ［汎用コマンド］タブ－［汎用作図］グループ－［線入力］－［平行線］コマンド



11-2 入力方法の強化（平行補助線）

平行補助線を入力する際に、長さを指定できるようにしました。
※「無限補助線」がオフの場合、および無限補助線を基準線に指定していない場合

● ［汎用コマンド］タブ－［汎用作図］グループ－［補助線］コマンド